

～埋蔵文化財発掘ミュージアム～

「不思議なお碗」

博多遺跡群

(博多区店屋町)

この夏、博多区店屋町の博多遺跡群の発掘調査で、中世

に国際貿易都市として栄えた博多

ならではの珍しい陶磁器・双層碗が

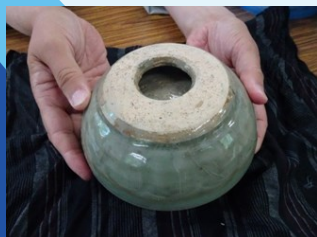
完全な形で出土しました。

双層碗は底に穴が開いた碗の上に皿が重なり中が空洞になっている器です。今回出土した双層碗は12世紀後半（中国では宋代、日本では平安時代終わりごろ）に中国浙江省の龍泉窯で焼かれた青磁です。

この碗は、中国で「諸葛碗」や「孔明碗」と呼ばれ、体の弱った諸葛孔明がそれを悟られまいと食べ物が見え食欲旺盛で元気があると見せかけるために工夫した器とされていますが真偽は不明です。盛ったものを多く見せることから供え用の容器という説や、「暖碗」とも呼ばれ、底に開いた穴から熱湯を入れて栓をし、食物を保温した器という説もあります。また、さいころを振るための碗など諸説ありますが、現在は保温用の「暖碗」説が有力なようです。みなさんはどう思いますか？



上げ底になった碗



お碗の底の穴

→ 8月・9月のイベント情報

8月

- 3日 紅葉八幡宮獅子まつり（市登録無形民俗文化財）
場所：紅葉八幡宮ほか周辺（早良区高取1）
- 6日 玄清法流首僧琵琶（県指定無形文化財）
場所：成就院（南区高宮1）
- 13～15日 田隈の盆押し・盆綱引き（市指定無形民俗文化財）
場所：地祿天神社（早良区野芥2）
- 15日 草場の盆綱引き（市指定無形民俗文化財）
場所：草場町内集荷場広場（西区大字草場）
- 16日 西浦のかずら引き（市指定無形民俗文化財）
場所：西浦漁港（西区大字西浦）
- 17日 志賀島の盆踊り（市指定無形民俗文化財）
場所：渡船場の横の広場（東区大字志賀島）
- 17日 宇田川原豊年獅子舞（市指定無形民俗文化財）
場所：丸隈山古墳（西区周船寺）
- 24～26日 大浜流灌頂（県指定有形民俗文化財）
場所：流灌頂通り及びふれあい通りの一部（博多区大博町）

9月

- 14日 板付弥生のムラ「土器づくり体験教室」
※応募要項は市政だより8月15日号・ホームページをご覧ください。
- 28日 第3回埋蔵文化財センター考古学講座
「稲荷山古墳出土鉄剣銘と倭王権」
講師：熊谷 公男氏（東北学院大学名誉教授）

福岡市経済観光文化局文化財活用部

住所：福岡市中央区天神1-8-1
TEL：092-711-4666 FAX：092-733-5537

文化財の保存・管理・活用に関すること	文化財活用課	TEL:092-711-4666
史跡の整備・活用に関すること	史跡整備活用課	TEL:092-711-4784
埋蔵文化財の発掘調査・手続きに関すること	埋蔵文化財課	TEL:092-711-4667
埋蔵文化財の収蔵・保管・分析に関すること	埋蔵文化財センター	TEL:092-571-2921

ホームページ 福岡市の文化財

<http://bunkazai.city.fukuoka.lg.jp/>

Facebook「福岡市の文化財」でも情報発信中！



ふくおか文化財だより



Vol.22 2019年8月

～博多の祭りが熊本へ～

『祭りアイランド九州』

43の祭りが集結！

中世の日本では、正月に福神、めでたい舞、傘鉾や趣向をこらした作り物が、その地を治める有力者の屋敷を訪れる行事がさかんに行われていました。福神、恵比寿、大黒の三福神と稚児舞が各所を表敬する博多松ばやし（国の記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財）は、この「古式」をよく伝える祭りです。江戸時代には、博多町人が正月に福岡藩主を表敬祝賀する行事として行われ、明治時代以降、幾度か様変わりを経て、現在見られるように5月の「博多どんたく港まつり」の中で繰り上げられるようになりました。

その博多松ばやしが、博多祇園山笠行事（国の重要無形民俗文化財）とともに本年9月28・29日、熊本で開催される「祭りアイランド九州」に登場します。祭りアイランド九州では、ラグビーワールドカップ観戦のため海外からも多くの方が訪れている熊本市内中心部に九州・山口各地の43の祭りが集結し、まちがにぎわいます。熊本の復興の歩みにエールをおくる博多の祭りを、応援に行きませんか？
『祭りアイランド九州』 ホームページ
<https://matsuri.welcomekyushu.jp/>



『筑前名所図会』(1821)
「松囃子三福神」部分



～福岡市屈指の外国人観光客人気スポット！～

福岡城・鴻臚館で日本文化の学びと体験を

福岡城は、国内でも屈指の名城として知られており、近年外国人観光客の方々にも人気の観光スポットとなっています。

大型クルーズ船が来航する度、多くの方々が福岡城を訪れ、福岡市内を展望するために福岡城天守台に上っています。

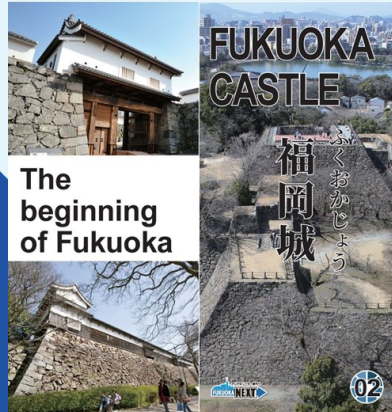
また、外国人対応可能な着物体験所が三の丸スクエア内にオープンすると、着物を着て福岡城内をめぐる下之橋御門や名島門などの



タイの大学職員の皆さんの福岡城内着物体験
(「福岡城 舞遊の館」HPより)

歴史的建造物を見学して、日本文化を学び体験する方々も増えてきています。

こうした福岡城を訪れる外国人観光客の方々に、より福岡城・鴻臚館を知っていただくため、多言語案内リーフレットを作成し、鴻臚館跡展示館・福岡城むかし探訪館で無料配布しています。また、鴻臚館跡展示館ではQRコードによる多言語解説も行っています。



多言語案内リーフレット (福岡城)

ラグビーワールドカップなどで初めて福岡を訪れる外国人観光客の方々にも、ぜひ福岡城や鴻臚館を知って日本文化を体験していただきたいです。

～文化財の保存活用に関する基本方針～

世界へ福岡の歴史と文化財を発信する

本年3月に公表した「文化財の保存活用に関する基本方針」では、福岡市の歴史と文化財の魅力を発信する多言語対応情報の充実を図っています。

5月からは、「Time Trip! Fukuoka 福岡市文化財マップ」日本語&英語版の配布も始めています。

福岡市が、文化財について外国語で情報発信を本格的に始めたのは、平成7(1995)年。A4判18ページフルカラーの文化財紹介パンフレットが、日・英・中・韓の4ヶ国語で発行されました。その年の8月～9月に開催されるユニバーシアード福岡大会に備えてのことです。大会は、「スポーツはかるく国境をこえる」をスローガンにし、小学校区が応援する国を決め選手団を歓迎する「校区ふれあい事業」が展開され、大会運営にはのべ5万5千人の市民ボランティアが参加しました。市民が、「世界に開かれた



Time Trip! Fukuoka
福岡市の文化財マップ



福岡市歴史文化財ガイドマップ (平成7年発行)

FUKUOKA」の一員であることを肌で感じた暑い夏だったことでしょう。

国際会議やスポーツ大会の多い福岡で、人々の交流をより多にすることに、地域の歴史や文化財は大きな役割を果たします。今後も情報の多言語化を充実させていきます。

～埋蔵文化財センターだより～

遺跡の出土品ってどれくらいあるの？

遺跡を発掘すると、たくさんの土器や石器が発見されますが、福岡市内でこれまで発掘された出土品の量はどれくらいだと思いますか。

平成30(2018)年度までに埋蔵文化財センターに収められた出土品は、約130万点、専用の収納箱にして約13万箱になります。箱の高さを15cmとすると、すべてを積み上げた高さは、世界最高峰のエベレスト山(8,848m)の2倍以上になります。一方、箱の長さは60cmなので、すべて並べると福岡市から熊本県までにいたる長さになります。



棚に収められた出土品

当センターには毎年3～5千箱の出土品が収蔵されます。このペースでいくと、50年後には箱を並べた長さは鹿児島県に達し、箱を積み上げた高さは地球の成層圏(高さ約50km)を超えるかもしれません。出土品の一つ一つが歴史を物語る貴重な資料で、福岡市がいかにか豊富な歴史情報を持っているかがわかります。これらの出土品は日々、考古学の研究や、教育の教材、博物館の展示などに利用され、わたしたちの知識や文化をより豊かなものにしています。

～重要文化財指定記念展「庚寅銘大刀展」開催中～

場所：埋蔵文化財センター (博多区井相田2-1-94)

10月27日まで ※8月11日まで大刀の実物を展示中

福岡市埋蔵文化財センター ホームページ
<http://www.city.fukuoka.lg.jp/maibun/html/>

